

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
編集
なかま編集委員会
〒285-0025
佐倉市鎗木町 198-3
電話 (043) 485-1801

蓬莱橋----- 大川 義郎 国際森林年に思う----- 清澤 瞳子
昭和生まれの俺達は----- 及川 栄喜 陸軍中野学校 二俣分----- 井上 恭二

登山の魅力

鶴田行男

故郷には山がある。迎えてくれる山があり、帰ってきたと実感できる山がある。

我が故郷豊田市は、東方に水田が広がり、その向こうには矢作川が流れ、山脈が連なる。とりわけお気に入りには三河富士と言われる村積山である。その後方には六所山、焙烙山、段戸山と続く。北方には、猿投山、冬になると御嶽山が白く輝き、北東方面にも南アルプスの峰々が遠望できる。

50歳を過ぎ、勤務先がごく近く(500m)となった。休日には家の周りに職場で会う知り合いいっぱい環境となり息苦しさを覚えるようになった。そこで、休日になると妻と共に家を離れてウォーキングに出かけるようになった。自家用車で自然や歴史・民俗など興味のそそられる地域に

出向き散策をするともにも山にも出かけるようになった。

一日黙々と山を歩いて汗を流すと、気持ちがいだけだ。なく水やおにぎり、空気がとても美味しい。山頂に到着した人は、みんないい顔をしていいる。成し遂げたときの達成感は何にも変え難い喜びである。山に出かけると不思議と心の安定が図られ、満足感に浸れることからのめり込んでいった。

山の魅力は、なんとと言っても風雪に耐えた大自然にある。山の姿、青空に屹立する峰々、雲海に浮かぶ山脈、雪を抱き白く輝く冬の山嶺…。登山道は、林間、草原、雪原、渡渉、岩場、鎖場、階段、木道と様々で変化に富んでいてこれも楽しい。山行で出会う植物は可憐で美しい。雪解けを追うように

して、悪条件にもめげず健気に咲くからか、一輪一輪の花の美しさが疲れた登山者を癒してくれる。秋ともなると全山が巨大な錦絵となり圧倒される。

様々な生き物にも出会う。カモシカとバツタリ鉢合わせしたり、ミソサザエに道案内されたり、乱舞する蝶に出会えたりでワクワクしながら山道を歩く。

とりわけ迎えてくれる山小屋では、いろいろな人との出会いと交流があり楽しい。夕日や星空、日の出も圧巻である。山の交流サイト「ヤマレコ」で山の情報データを参考にした、山行記録をまとめて載せたりもしている。

山は危険であるが装備や体力をしっかりと整え、魅力一杯の山行を元気な限り夫婦ともにのしんでいきたい。

(編集委員)

蓬萊橋

静岡県の大井川に架かっている木造の橋。江戸時代は、川越として有名な東海道23番目の嶋田宿の西側にあった。

昔は、渡河の難所で「箱根八里は馬でも越すが、越すに越されぬ大井川」と唄われたところに架かっていた橋である。大井川の西側台地がお茶産地「牧之原台地」。

この橋は、明治12年1月に建設されたという。もともと建設当時は全体が木造であったようだが川の増水のたびに流され、今の橋脚は、昭和40年にコンクリート製になったという。しかし橋板は木造のまま、そのすき間から大井川の水面が覗かれる。橋は、全長897・4メートル、橋幅2・7メートルである。平成9年に英国ギネス社から「世界一長い木造歩道橋」として認定を受け、認定碑が川土手に設置されている。

橋の東詰には、小屋があつてここを渡る人、自転車利用者が通行料金を納める（バイクや四輪車は通行できない）。この小屋には昔の橋の様子の写真が掲げられ往年を偲ぶことができ。

橋は水面から5メートルぐらいあるうか、橋の真ん中に、赤いペンキで「真ん中」と案内表示がある。その真ん中から北東方に富士山が望まれ、大井川から見た富士山は、圧巻である。川は白濁、数本の流れとなって太平洋に注いでいる。

川土手から橋下に降り、橋脚から蓬萊橋を眺めると、この橋の凄さと美しさに見とれてしまった。

（藤治台 大川 義郎）



国際森林年に思う

一昨年の国際天文年は、ガリレオ・ガリレイが望遠鏡で宇宙観測を始めて400年、人類が月に着陸して40年の年。昨年の国際生物多様性年は世界会議が名古屋で開催、身近なマグロ、クジラの問題で開催もあやぶまれ、考えさせられる年だった。今年には国際森林年。前者に比べ、余り報道されることもなく身近な割合には地味な存在。

林野庁に電話をすると快く応対。数分後にFAXで資料が届く。インターネットでの検索も可。これらの情報によると、2006年国連総会で2011年を「国際森林年」と決議。「森林・林業再生元年」と位置づける。

サブテーマは「未来に向かって日本の森を活かそう」。森林率世界第三位の日本の豊かな森林が、活用不十分。必要な手入れもなされていない

現状。森林は木材の生産、水源のかん養、国土保全、地球温暖化防止、生物多様性保全などの機能を持ち、私達の日常生活には欠かせないもの。世界中で、最近20年間で日本国土面積の千倍もの森林が消失。私達に身近な森もいつの間にか消えている。

木が二つ並んで林、三つで森、五つで森林。1本の木の存在が大切だ。

陸前高田市の約2万本の松原が、津波で一瞬にして消失。たった1本残った樹齢280年程の松に、世界中から応援のあたたかいメッセージが届く。接木や培養で、苗木を育成する模索が続く。

大災害にもめげず残った1本の松への人々の思いは深い。だれしもが、復興のシンボルとして、この1本の松の木の生命に生かされている。

※ 平成23年6月投稿

（井野 清澤 瞳子）

昭和生まれの

俺達は

昭和生まれの俺達は 疎開先から戻ったら 食い物住まい何もない すきっ腹抱えて頭から シラミ退治のDDT進駐軍ジープに群がって覚えた言葉が「ギブミーチョコレート」ひもじかったなく敗戦ショックの打撃受け教育改革ただなかで 新制高校 大学と ろくに授業も受けられず バイト見つけに駆け回り 空しかったなく 学校出たけど就職難 やつと見つけた職場では 企業戦士と煽られて 滅私奉公当たり前 仕事の為なら家庭も無い 疲れた体に鞭打って ただひたすらに走り続け 業績向上に努めたね たまの休みは寝るだけ 疲れたなく バブルが去って気付いたら 何時の間にかお払い箱 寝る間も無く働いた あの日々は何だったのか 体のあちこち

痛んで居る 頭の毛も薄くなつた さうこれからどうする サンデー毎日が始まった 何もすることないないない 女房に疎んじられ 子供も相手にしてくれない 時間はたつぷりあるのだが 懐具合は空っ風 そんな時に見つけた市民カレッジ 素敵な出会いが始まった 机に座っての講義に 何十年振りかを思い出す 玉入れ 綱引き フォークダンス 年を忘れて走り回る 舞台の上での発表は 踊り寸劇 大合唱 真面目な顔で演じてる 顔に刻まれた皺の数 過ぎし人生語ってる 年はとつても気は若い 大震災 原発 円高で 暗い世相が続いているが 小さな事でも始めれば 僅かな明るさ見えてくる さあ、昭和生まれの仲間達 一步前に踏み出そう！！

(井野 及川 栄喜)

陸軍中野学校

二俣分校

静岡県浜松市天竜区二俣町てんりゅう ふたまたこれが私の故郷です。

カレッジ三年歴史コース最初の授業で、担任から歴史の話を楽しく聞かせて頂いた中に陸軍中野学校の話がありました。中野学校と言えば我が故郷にギリラ戦教育をしていた分校があった事を思い出しました。故郷の実家は既に二俣には有りませんが、この8月に地元で開かれた中学校の同窓会に参加した折、天竜の図書館に寄り資料の閲覧をさせて貰うと共に現地を訪ねて見ました。そこで幾つかの驚きの事実が判りました。

まず、分校の建物があった位置、それが何と我が母校(高校)に隣接した地で現在そこには記念碑が建てられていました。そして更なる驚きは分校第一期生の中にあのルバング島から30年振りに帰還した「小野田寛郎さん」が在籍していた事でした。小野田さんは現在東京中央区佃に在住し冬場の三ヶ月はブラジルでの生活、あとは日本での活動(財小野田自然塾理事長)です。

何故30年間もルバング島で戦い続けたのか、何故幾度も呼びかけに応じなかったのか、何故鈴木青年(後にヒマラヤで遭難死)には心を開いたのか、何故ブラジルに渡り牧場を開いたのか、何故日本で自然塾を開いたのか、子供のころはどんな子供だったのか、帰還後奥さんとはどのような経緯で結ばれたのか等々多くの興味深い事実を知ることができました。

分校第一期生の記録集『いちせんし一戦史』が天竜の図書館に置いてありました。機会をみて取り寄せ読んで見たいと思います。

歴史って面白い！

(山王 井上 恭二)

12月の黒板

『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いた

だいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更、句読点等の修正や語句の訂正をさせていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL 043-485-1801

〒285-0025 佐倉市鏑木町198-3

URL <http://www.city.sakura.lg.jp/kominkan/cyuuou/index.htm>

わくわく道

早いもので、今年も残りわずかとなりました。
今年には被災地を含め各地で、花火大会や盆踊り大会が再開され、日本に少し元気が戻ってきた感じがする一年でした。
オリンピックも又、私達を大いに元気づけてくれました。今回のオリンピックでは、注目選手の優れた技術を詳細に分析した解説やメダル獲得のための血の滲む様な練習の姿を、事前に紹介する番組が多

かったため、本番への関心も大いに高まりました。
結果はメダル獲得数38個で過去最高となり、48年ぶりとか28年ぶりのメダル獲得という種目もありました。
なでしこジャパンのゴールシーンや内村航平の空中旋回シーンは、今でも脳裡に強く焼き付いています。
来年も今年以上に良い年にしたいものです。

(坂本 初男)

あとがき

市民カレッジで学ぶ様になり『なかま』の編集に携わる事になった。毎回の編集会議で原稿を沢山読ませて頂いているが、自分も早く先輩方の様に立派な原稿が書ければと思っています。

今月号は、ギネス社に認定された「蓬莱橋」の風景に感動した大川さん、「国際森林年」に森林の大切さを訴える清澤さん、昭和生まれの仲間

にエールを送る及川さん、カレッジの授業がきっかけで、故郷にあった二俣分校の跡地や、ルバング島から奇跡的に帰還した小野田元少尉が在籍した事等を知った井上さんの投稿です。『俣一戦史』に関する井上さんの次の投稿を期待しています。

日常生活で感じた事等を綴った皆様方の投稿を、心からお待ちしております。

(千葉 偉固)